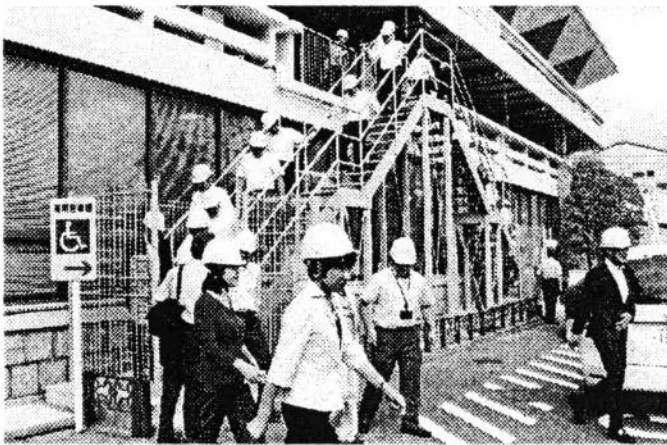


# 非常階段新設で効果

## 川口市議会 地震想定し避難訓練

川口市議会（定数45人、宇田

川好秀議長）は、本会議中に地震があつたと想定した避難訓練を実施した。実際は本会議は終了後で傍聴者はゼロ、市議44人、岡村幸四郎市長ら市幹部27人と、議事事務局員ら総勢約90人が正面玄関ホールと南側ベランダから非常階段へと、2ルートに分



新に設置された非常階段を避難する議員や市幹部たち。川口市役所

かれて整然と避難した。

避難を開始する前に①まず姿勢を低くして机の下にもぐる動作（ドロップ、5秒間）②机の下にあるヘルメットをかぶり頭を守る動作（カバー、10秒間）③その姿勢のまま地震の揺れが収まるまで待機する（ホールド・オン、30秒間）の訓練後に避難を開始。

これまで1カ所だった南側ベランダへの非常口を2カ所にし、昨年はなかつたベランダから前庭への非常階段を新設したことなどが効果を上げ、昨年6月15日の同訓練より1分半短縮した。ほかに、傍聴人が議員と合流して非難するため、傍聴席から議員席（議場）に降りる非常階段も新たに設置された。

今年3月議会で危機管理特別委員長の立石泰広市議の提案を受けて実施された。元消防の救急隊員だった宇田川議長は「大

体つまきいったと思う。ただ、傍聴席も含め避難人員の確認をどうするかが今後の課題だと思ふ」と語った。  
（岸鉄夫）



2013年 9月20日 金曜日  
(平成25年)